

平成29年度 第2回 小牧市認知症初期集中支援チーム検討委員会 議事録

日 時	平成30年2月14日(水) 14時～15時
場 所	小牧市役所東庁舎 5階 大会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>柴山 漢人 特定医療法人晴和会 あさひが丘ホスピタル 認知症疾患医療センター センター長</p> <p>森 真理子 小牧市医師会</p> <p>辻 清太 小牧市医師会</p> <p>菅沢 由美子 小牧市民病院 地域連携室副主幹</p> <p>蔦垣 めぐみ 小牧市介護保険サービス事業者連絡会</p> <p>土佐 知美 小牧市介護支援専門員連絡協議会</p> <p>小川 百合子 愛知県春日井保健所</p> <p>三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧</p> <p>尾崎 雅代 小牧地域包括支援センターふれあい</p> <p>宮越 晴美 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷</p> <p>瀬口 幸恵 篠岡地域包括支援センター小牧苑</p> <p>金田 泰丈 北里地域包括支援センターゆうあい</p> <p>山本 格史 健康福祉部長寿・障がい福祉課長</p> <p>松永 祥司 健康福祉部介護保険課長</p> <p>野口 弘美 健康福祉部保健センター所長補佐</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長</p> <p>江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長</p> <p>倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長</p> <p>長谷川 えい子 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係</p> <p>笹川 江莉奈 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 小牧市認知症初期集中支援チームの体制と活動内容</p> <p>資料2 小牧市認知症初期集中支援チーム事業実施の手引き</p> <p>資料3 関係書式</p>

1. 開会

あいさつ

2. 議題

(1) 小牧市認知症初期集中支援チームの体制と活動内容について

- ・ 事務局より、資料1：小牧市認知症初期集中支援チームの体制と活動内容、を用いて、説明。

柴山会長)

- ・ 対象者の把握については、地域包括支援センターと連携して情報収集を行うという方法で実施するということであるが、支援チームと地域包括支援センターが協力しあって、対象者の方の支援がスムーズにできるように体制を整えていただきたいと思います。
- ・ また、チーム医の先生におかれましても、チーム員へ支援やかかりつけ医、認知症疾患医療センターとの連携について、支援していただきたいと思います。
- ・ 独居の方、老老介護の方の場合には、対応が難しい場合もあると思う。

(2) 小牧市認知症初期集中支援チーム事業実施の手引きについて

- ・ 事務局より、資料2：小牧市認知症初期集中支援チーム事業実施の手引き、資料3：関係書式を用いて、説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下のとおり。

野口委員)

- ・ P.7 (5) 支援方針の決定とあるが、チーム員会議の中で対象者にどのような支援が必要かどうかというような支援方針を決めていくことでよろしいか。

事務局)

- ・ 支援方針の決定は、チーム員会議のほうで決定をしていく。

野口委員)

- ・ P. 7 (6) 初期集中支援の実施について、実施とは具体的にどのような内容か。

事務局)

- ・ 資料1：小牧市認知症初期集中支援チームの体制と活動内容の7にお示した内容である。
- ・ 自立への支援としては、本来あるべき医療機関や介護サービスのつながりが大きな目的となってくるため、医療機関や介護機関等の関係機関への働きかけや、つながり、また必要に応じて、その方の生活支援等を行っていくことになると考えている。

柴山会長)

- ・ 具体的な内容としては、個々によって対応方法が変わってくるため、支援内容としては、事務局が述べた内容となってくると思われる。

柴山会長)

- ・ 一番最初は、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員が対応する形になるのか。

事務局)

- ・ 認知症地域支援推進員と連携していく形を想定している。

柴山会長)

- ・ 支援チームへの申し込みとして、他の自治体では、一番多いのは家族、次に民生委員と聞いている。民生委員に対して周知し、活躍していただければと思う。
- ・ 民生委員は、近所に住んでいるということから、色々な情報は具体的にあるのではないかとと思う。

三嶋委員)

- ・ 支援チームは4月からのスタートとのことだが、現段階でも認知症の相談の中で、支援に結

びついていないケースがある。

- ・ そのようなケースは、4月になれば支援チームへ依頼をすれば良いのか。または、受付は4月の段階でと線引きをされるのか。

事務局)

- ・ 緊急性がある場合などは、支援チームの有無にかかわらず、地域包括支援センターと市で協議をしていかなければと思っている。
- ・ 支援チームの動きは、4月1日からスタートと整理させていただく。

柴山会長)

- ・ 支援の拒否をする家族もいる。
- ・ そのような場合には、小牧市では市がかなり関係しているので、割合対応がしやすいのではないと思う。
- ・ そうでないところはなかなか大変であるので、そういう場合には、市や保健所等が関わると、スムーズにいくと聞いている。

小川委員)

- ・ 帳票番号①対象者把握チェック票の細目②についてであるが、これはどういう意味か。

事務局)

- ・ 鑑別診断を受けずに、認知症の疑い程度で薬物（投薬）を処方されている方を指している。

柴山会長)

- ・ 認知症疾患医療センターで受診された方の中にも、はっきりした認知症診断を受けていない方で処方されていたケースもあった。そのような方を指している。
- ・ 少数ではあるが、たまにそういう方がみえる。
- ・ MC I 又は認知症の初期の場合に、医療機関において、そのような場合も起こりうるのではないか。
- ・ 介護保険サービスに結びついていない方の中に、若年性認知症の方が多い。
- ・ デイサービスだと年配の方が多いので、行きにくいとおっしゃる方が多い。
- ・ 若年性認知症の方の集い等への参加を勧めていただくと、割合スムーズにいく場合があると思う。
- ・ 軽度の場合には、精神障害者の授産所のようなところを利用するということも可能かと思う。割に若い方が多いので、スムーズにいく場合もある。
- ・ 帳票番号①対象者把握チェック票のところ、わかりにくいところはあるか。

各委員)

- ・ 質疑無し

柴山会長)

- ・ 森副会長、実際に認知症の方を対応していらっしゃるの、何かありましたら。

森副会長)

- ・ 一人暮らしや夫婦二人暮らしでも、何ヶ月間も病院へ行っていない場合や、家族の方が同じ敷地内や同じ建物に住んでいても、あまり把握されていない場合もあると思う。
- ・ 認知症地域支援推進員は何人いるのか。

瀬口委員)

- ・ 小牧市全体で5人。

柴山会長)

- ・ 本当はどうか。学区で1人ずついるくらいになればいいのか。

事務局)

- ・ 小牧市は中学校区より少し大きい6地区に分けられる。中部と西部の2地区は社会福祉協議会の地域包括支援センターが持っているので、市内5箇所ある地域包括支援センターに1人ずつ配置している状況である。

柴山会長)

- ・ この推進員というのが、いろいろな意味でコーディネートする重要な役割だと思うので、よろしくお願ひしたい。
- ・ このアセスメント用のシートというのは、国の様式を使っているのですが、問題ないと思うが、これを実際に使いこなすのが難しい。これから使いこなせるようにしていきたい。

三嶋委員)

- ・ P. 7の表の中で、包括から帳票番号①、②のシートを支援チームへ送るとのことだが、個人情報の取扱については、口頭で了解を得ることによろしいか。

事務局)

- ・ 帳票番号①の一番下のところに記載してあるが、包括から支援チームへの情報提供に関しては、口頭でよいが、包括が了解を得るといふ形で進めていきたいと考えている。

柴山会長)

- ・ 個人情報の収集に関しては、市の場合には問題ないと思うが、それを今度出すときに非常に要注意である。

小川委員)

- ・ 帳票番号③訪問支援対象者 基本情報についてお尋ねしたい。
- ・ この基本情報シートについては、その都度、情報を足していくというお話であったが、この基本情報シート自体は、A4サイズで運用されるということによろしいか。

事務局)

- ・ A4サイズでの運用を予定している。

小川委員)

- ・ 保健所で色々な相談を受ける際、日常生活状況や食事や生活についてなどお聞きするが、個人差があり、食事といっても一人で可能な場合や、一部介助といっても状況が様々である。
- ・ 基本情報シートを多職種で共有するとなると、一部介助という表記だけでは心配である。保健所では、選択肢として、見守りも入れている。
- ・ また、一部介助であっても、どんな日常生活を過ごしているのか、具体的に記入できる欄を設けていたり、食事に関しても、普通食なのか、軟食で少しやわらかくしているのか、そういうところなど、必要な情報を追記できるようにしている。
- ・ そうなると、盛りだくさんの情報になり、A4サイズでは書き足していられる方も大変だと思ひ、心配である。
- ・ また、障害等認定の欄で、何種何級ということでは程度はわかるが、視覚、聴覚、肢体の分野も予めつけておかれると良い。
- ・ 多職種で情報共有というところで、A4サイズで大丈夫かと心配である。

事務局)

- ・ 基本情報シートに関しては、基本の基本がわかる部分である。
- ・ より細かいところに関しては、帳票番号④身体・日常生活状況等チェック票を別に設けており、こちらのシートを活用しながら、細かい身体の機能やコミュニケーション能力、目の見づらさや耳の聞こえづらさなどを情報収集していきたいと考えている。
- ・ 基本情報シートに、細かい部分などいろいろ詰め込むと、わかりにくくなってしまふことを

防ぐため、このような形とした。

- ・ ただ、見守りなどそういう表現の仕方も入れていく必要があると思うため、参考にさせていただきたい。

柴山会長)

- ・ 他に質問はよろしかったか。

各委員)

- ・ 質疑なし

(3) その他

事務局)

- ・ 平成30年4月より、小牧市認知症初期集中支援チームが1チーム発足となる。
- ・ 今後の検討委員会では、チームが活動していく中で発生した課題や本市の認知症施策の在り方等を、検討していく予定。
- ・ また、4月15日号の広報こまきにおいて、認知症初期集中支援チームの記事を掲載し、市民の皆様に認知症初期集中支援チームの周知を図っていく予定。

3. 閉会